

# 創立二〇周年記念第一〇回世界俳句協会大会レポート

A Report on 10<sup>th</sup> World Haiku Association Conference: 20<sup>th</sup> Anniversary

Ban·ya NATSUSHI

夏石 番矢

二〇〇〇年九月にスロヴェニアのトルミンで創立大会を開いた、世界俳句協会は、公益財団法人東京歴史文化財団 アーツカウンシル東京の助成を得て、二〇一九年九月十三日から十五日まで、東京の中心地で十回目の世界大会を開いた。世界大会は二年ごとに世界各国で開催される。これまで、スロヴェニア、日本、ブルガリア、リトアニア、コロンビア、イタリヤが開催地となった。今回の大会の名称は、世界俳句協会会員に限定されないより広い参加者向けに、世界俳句コンファレンス… 俳句は未来へ 俳句は世界へとし、実質は、

創立二〇周年記念第一〇回世界俳句協会大会

であった。テーマは、「俳句、その地域性と世界性」。

この大会への参加者は、一五か国二一四人。あらかじめ、この大会の特徴をいくつか列挙しておく。

1 ほぼ全参加者が、会期中の三日間で三回俳句朗読の機会を得た。

2 大会の公式言語は、日本語と英語。

3 俳句朗読は、この公式言語二言語に加えて、ロシア語、タジク

語、ネパール語、イタリヤ語、モンゴル語、アラビア語、中国語、ドイツ語、ブルガリア語、ポルトガル語、フランス語、ハンガリ

ー語でも行われ、合計一四言語の多言語俳句の一大交響となった。

4 俳句翻訳ワークショップでラテン語訳も朗読されたので、実質は一五言語の肉声による俳句が大会に多彩で熱い渦を生み出した。

5 今回、日本開催なので、アジアに焦点をあて、モンゴル、中国語、ネパールの俳句セッションを設定した。タジキスタンとマ

レーシアの俳句詩人の参加もはじめて実現した。

6 アジアと北アフリカにまたがるアラビア語俳句セッションも初めて設定された。

7 日英二言語芭蕉俳句カルタ実演、多言語の俳句創作ワークショップと俳句朗読ワークショップなど、参加者が気軽に楽しめるセッションを設定した。

8 対して敬意を表して、駐日イラク大使をはじめとするアラビア語圏の外交官三名が前夜祭に出席する光栄を得た。

9 このようなこの大会の特色は、二〇一九年三月に刊行された五一

か国三九言語一七四人の俳句選集を主軸とする『世界俳句二〇一九



リカ現代詩への俳句の影響」を要約しておく。二〇世紀初頭以降、エズラ・パウンドによつて始められた詩の作り方の変革、つまり旧来の論的書き方ではない、断片的な俳句的表現のアメリカ詩への取り込みは、ウィリアム・カトリロス・ウィリアムズによる単純な詩的言語へとさらに深い現代詩を展開した。現代アメリカ詩には、その延長線でアメリカの現代詩の影響がある。根本的で重要な俳句からの影響がある。少くもあつた。高校や大学での観点を立てた俳句から福田淑子は、「いじめと俳句」という短い講演で、孤立した若者に俳句創作がもたらす作者自身へのいやし、そして他者への心理的橋渡しの効果を語る。盛沢山な内容の第一〇回世界俳句協会大会も完了へと近づく。スコット・ワトソンの「芭蕉俳句の英訳の困難を自分自身の訳例を挙げて論じ、エドワード・レビンソンは、写真と俳句のコラボレーション実践をスクリーンに自作を映写しながらコメントする。俳句のこの後のエンターテインメント的セッションについては、芭蕉の俳句カルタ大会の優勝者は、日本人ではなくハンガリーの日本語・日本文学の重鎮ユディット・ヴィハルだったことのみ記しておこう。この日に、第三回世界俳句協会俳句コンテスト結果発表と表彰式が行われた。一九か国七〇通二〇八句の投句から次の三句が、七人の国際審査員によつて選ばれた。

第一位  
清水 滋生(日本)  
滴りをたどればジェームス・デイーンの青空

第二位  
乾 佐伎(日本)  
うららかや山手線は自己研磨

第三位  
ステファヌ・ダムール(カナダ)

Mori Tower dances  
with the depths of the earth  
The engineer drinks tea.

地球の深さで／森タワー踊る／エンジニアお茶飲む

また、第一〇回世界俳句協会大会のために、二冊の俳句アンソロジーが出版された。『世界俳句俳句コンファレンス アンソロジー二〇一九』(夏石番矢編、世界俳句協会、二〇一九年)と『世界モンゴル俳句―第十回世界俳句協会大会記念句集』(富川力道編集責任、世界モンゴル俳句会、二〇一九年)である。この二冊は、全参加者に無料配布された。大会を通じて俳句朗読の基礎テキストにもなった。前者の俳句選集から、いくつか俳句を抄出しておこう。

バフテイヤール・アミニ(タジキスタン・ドイツ)

лагерь беженцев

готовят в одной кастрюле

свинину и говядину

refugee camp / cooking in one pan / pork and beef

難民キャンプ／フライパン一つで料理／豚肉と牛肉

クリシュナ・バジガイ（ネパール・英国）

हिउँको टोपी

ध्यानमग्न पराड

नदीको हल्ला ।

hat of snow / on the meditating hills / river makes noises  
瞑想の丘に / 雪の帽子 / 川は鳴る

アンジェリーナ・ボン（マレーシア）

Call of the hornbills

ripen the red berries on  
the welcoming tree

犀鳥たちの声 / 歓迎の木に / 赤い実を実らす

サメ・ダルウイッシュ（モロッコ）

حضورك الواوي،

الم يصنعها

صوى حنن الماء.

The valley. s stones, / Were not polished / Except by water. s love.  
谷間の石 / 磨かれない / 水の愛以外では

古田 嘉彦（日本）

路面電車ロウソクともすのが切符

Burning a candle / is your ticket / on the streetcar

ティム・ガーディナー（英国）

ice skating

a young foal

finds its feet

アイススケート / 仔馬 / 自分の脚を見つける

石倉 秀樹（日本）

風馬吃花走天下

風は馬花を喰らいて天下ゆく

The wind like a horse / runs under the heaven / eating flowers

岩脇リーベル 豊美（日本・ドイツ）

冷蔵庫の意味忘れたり翡翠置く

Die Bedeutung des Kühlschranks / vergessen und / die Jade hineingelegt

Forgetting the purpose / of a refrigerator / we place a piece of jade inside

鎌倉 佐弓（日本）

草いきれ道なきことを楽しめと

Strong smell of grass / for enjoying / without the way

アブドウルカリーム・カシッド（イラク・英国）

المدينة ثملة

بطيخ أصفر

يتجول

The city is tipsy / Yellow melons / Wander about  
都市はほろ酔い / 黄色いメロン / さまよう

水崎 野里子 (日本)  
われもまた歩みてゆくかダビンチの影

Also do I walk on / With you after Da Vinci / The lady: smile rich

長嶺 千晶 (日本)  
装飾の金翳りなき受難節

The golden decors / Shining bright with no tarnish / In fasting of Lent

夏石 番矢 (日本)  
雑種犬セシウムまみれで神を待つ

Covered with cesium / a mongrel dog / awaiting a god

ラム・クマール・パンデー (ネパール)  
Each Friday  
a tower falls

to fill up empty ocean

毎金曜日 / からの大洋満たそうと / 塔が倒れる

エリック・セランド (米国・日本)

Baroque journey to the bookstore

And return:

Blank expressions on train

書店へのバロックの旅 / そして帰路 / 電車の中のボケの顔

ズラトカ・テイメノヴァ (ブルガリア・ポルトガル)  
пустиня  
чувам вятъра

в пясъчните гънки

desert / j. entails le vent / dans les plis de sable

deserto / ougo o vento / nas rugas de areia

砂漠 / 砂の襞に / 風を聴く

Ts・ツオルモン (内モンゴル)

ᠲᠤᠰᠤ ᠴᠤ᠋ᠷᠣᠮᠣᠨ  
ᠠᠨᠤᠨᠠᠭᠤᠯᠠᠭᠤᠨ ᠤᠯᠤᠰ  
ᠤᠨᠠᠨᠠᠭᠤᠯᠠᠭᠤᠨ ᠤᠯᠤᠰ

真っ黒な大蛇みどりの魂吸い込んで茂みへ

Absorbing a green spirit / a jet black big snake / advancing to the bush

マリア・ラウラ・ヴァレンテ (イタリア)  
cactus in fiore...

l. insostenibile bellezza  
dei miei peccati

blooming cactus... / the unbearable beauty / of my sins

花咲くサボテン / わが罪の / 耐え難い美しき

ユディット・ヴィハル（ハンガリー）

Velem veszekszel?

Olyan vagy most, mint virág

szirmai nélkül

You quarrel with me / now you are like a flower / without petals  
あなたと喧嘩 / いまあなたは / 花びらのない花のよう

王 岩（中国）

乱れ髪ほのかに匂ふ御み瀧なり

娥眉雲髻亂，飛瀑暗香盈。

Disheveled hair / its fragrant aroma / like a waterfall

予想以上の数の俳句を引用してしまっただが、この大会に集まった俳句人の作品が多様で高度だったためだが、割愛した作品も少なくない。

今後世界俳句協会大会は、二〇二一年モロッコで第一回が、二三年には内モンゴルで第一二回が開催を予定されている。俳句はますます貴重な世界共通の現代詩となるだろう。